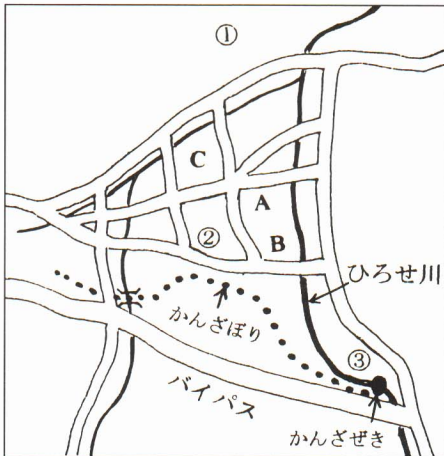


② ^{かんざせき} 勘左閼のようす ー仁井町ー



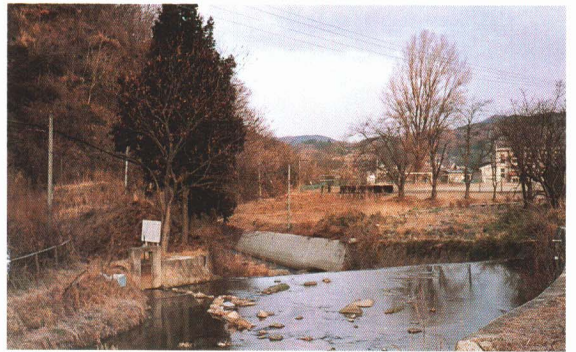
▲城の外ほり

- ① 川俣小学校
- ② しょうぼうしょ
- ③ 川俣南小学校
- A 八反田
- B 日和田
- C 五百田

広瀬川からとった水が流れていきます。



▲下から見た勘左閼



▲上から見た勘左閼 (左下に水門が見えます。)

ア 勘左閼のおこり

戦国時代のころ、^{なて やま かわたじょう やす} 館の山に河股城があった時、安田^{だかんざえもん}勘左衛門という人が、今の川俣南小学校のわきの広瀬川をせきとめ、城をとりまくほりを作ったといわれています。

その時はたらいっていた人たちは、それぞれの家から人夫として毎日出てほりを作ったそうです。

イ 勘左閼から水をひく

まわりの土地は、広瀬川より高く、すすきのはえるあれ地でした。しかし勘左閼から水をひくことによって、日和田、五百田、八反田あたりにたくさんの田を作ることができました。

＝まめ知識＝

- | | | | |
|---|------------------------------|------------------------------|---|
| 〔 | 日和田…日のよくあたる水田 | 五百田… ^{そく} 500束とれる水田 | 〕 |
| | 八反田… ^ぶ 広さが八反歩ある水田 | (1束とは1たばで、かぶらが7～8つ分) | |



▲広瀬川改修後の勘左閼の様子

ウ. 用水路のその後

平成7年、広瀬川の改修工事が終わり、^{かきしゅう} 勘左閼は、新しいすがたになりました。今は農業用水としては使われてはいません。



今は、すがたかたちがずいぶん変わってきているけど、そのほりが今でも残っているのかな。それに、どのあたりまでのびているのだろう。